

第2章

まちづくりの現況と特性



1 関連計画での位置づけ

南アルプス市まちづくり基本方針に関連する山梨県の計画及び第1次南アルプス市総合計画は、次のとおりです。

(1) 山梨県都市計画区域マスタープラン 基本構想・やまなし21世紀都市ビジョン

計画の概要

基準年次：平成12年

目標年次：平成32(2020)年

都市づくりの理念：恵まれた自然条件の中で、県土の持続可能な発展を支え、すべての人が自立して真の豊かさを実感できる都市の実現

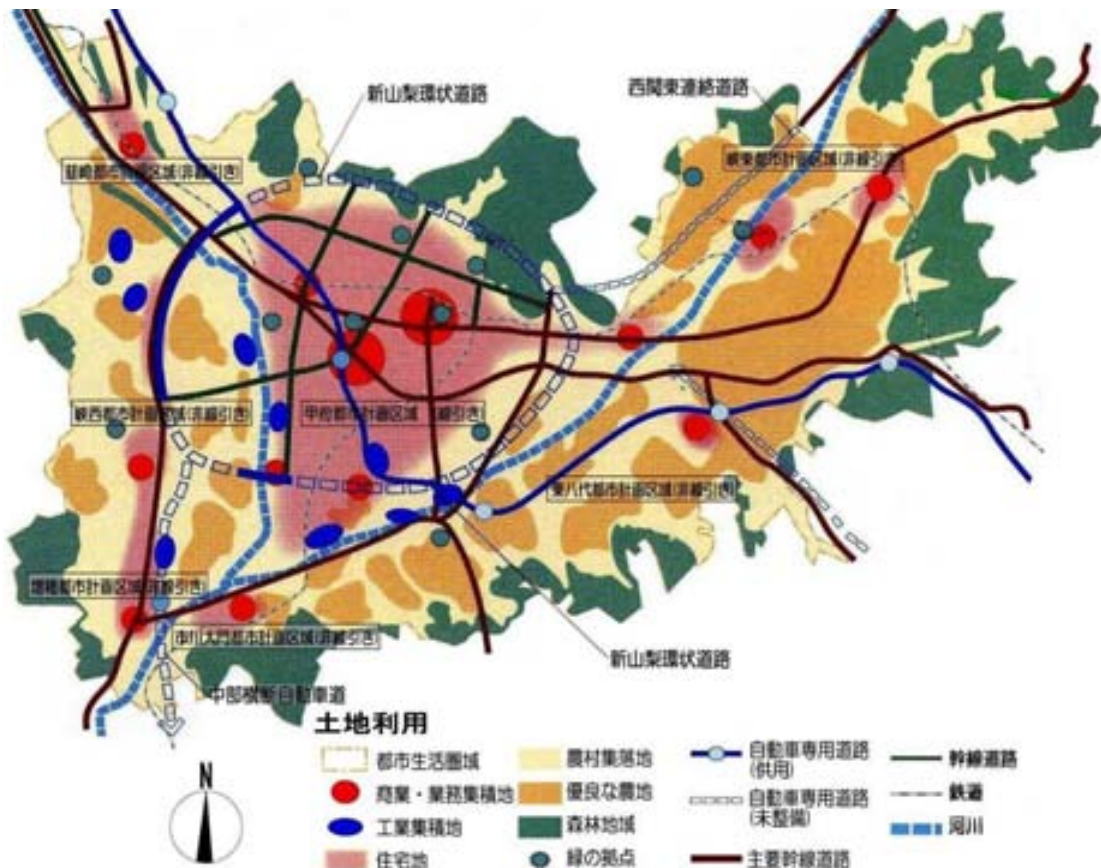
都市づくりの基本目標

- ・豊かな自然の中で環境と共生する都市
- ・すべての人が安全で安心して豊かに暮らせる都市
- ・地域の特性を活かした美しく魅力のある都市
- ・幅広い交流と活力に満ちた都市

本市の位置する中西部都市生活圏における都市づくりの方向

- ・高次都市機能の集積した中核拠点の整備強化
- ・魅力的な多自然居住地域の創造
- ・自然、歴史文化、特産物などを活用した交流促進と地域振興
- ・地震災害や風水害などに配慮した安全・安心な都市空間の実現

中西部生活都市圏(甲府地域)の将来目標図



南アルプス市の位置づけ

- ・南アルプス市(旧櫛形町・旧白根町の一部)を地域拠点として位置づけ、周辺市町村を含めた地域の人々が日常的な都市的サービスを楽しむよう商業・業務施設の集積を図ります。
- ・宅地化が著しい峡西地域の農村集落については、地域にあった適正な土地利用となるように宅地化を誘導します。果樹園を中心とした集団的な優良農地のある地域については、これらの農地の転用を誘発するような宅地化を抑制します。
- ・中部横断自動車道、新山梨環状道路などの高規格道路などのネットワークを構築し、これらを基軸として主要道路網を形成します。
- ・都市の貴重な緑地空間として、都市外周部の森林の保全に努めます。

(2) 峡西都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(山梨県)

計画の概要

基準年次：平成12年

目標年次：平成32(2020)年

都市づくりの理念：「良好な田園環境と交通の利便性を活かしたうるおいとにぎわいのある都市」の実現

都市づくりの基本方針

商業等の都市機能の強化

利便性の高い地域拠点を形成するため、中心市街地の都市基盤の整備を進め、商業等の都市機能の集積を促進する。

市街地内の水と緑の空間の整備と自然環境や田園環境の維持・保全

個性ゆたかなうるおいのある都市を形成するため、市街地内の水と緑の空間の整備を促進するとともに、適正な土地利用を進め、樹林や水辺などの豊かな自然環境や果樹園等と農村集落からなる田園環境の維持・保全に努める。

工業、観光などの産業の振興

にぎわいのある都市を形成するため、広域交通の利便性を活かす道路網の整備や土地の有効活用を進め、工業、観光などの産業の振興に努める。

総合的な交通体系の確立

広域及び地域の連携を強化するため、幹線道路の整備を進めるとともに、鉄道駅へのアクセスの向上やバス等の公共交通機関の利便性の向上を促進し、総合的な交通体系の確立に努める。

峡西都市計画区域の将来都市構造図



(3) 第1次南アルプス市総合計画基本構想

計画の概要

策定年度：平成17年3月

目標年次：平成26(2014)年

基本理念

- ・価値観の変化に対応した地域形成
- ・対話と協働による地域形成
- ・戦略性を持った地域形成

将来像：人と自然が響き合う新「文化」都市・南アルプス

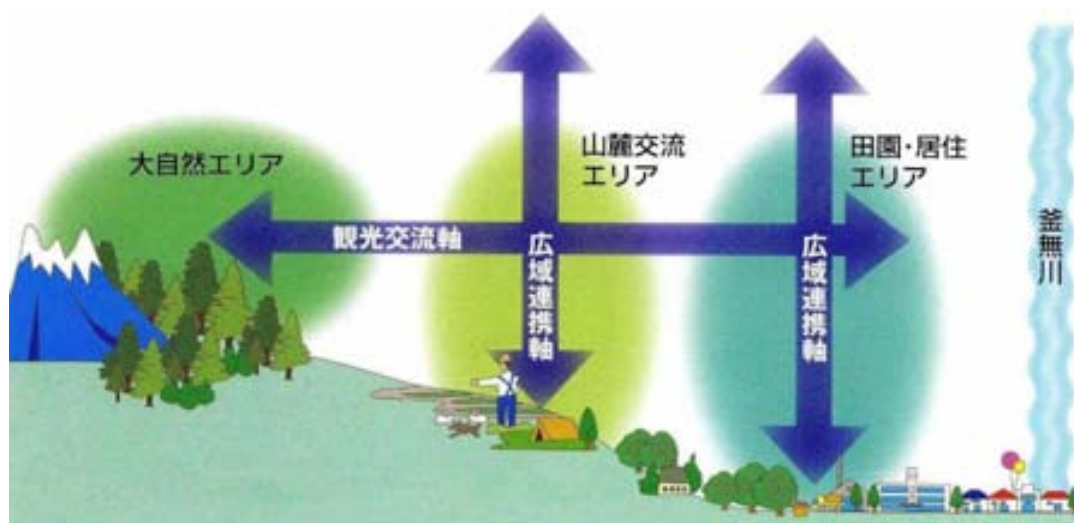
土地利用から見た地域の構造

- ・大自然エリア
- ・山麓交流エリア
- ・田園・居住エリア

施策の大綱

- ・情報と連携の都市づくり
- ・にぎわいと活力あふれる都市づくり
- ・うるおいと利便性のある都市づくり
- ・快適で心のかよいあう都市づくり
- ・個性と文化を育む都市づくり

南アルプス市の土地利用から見た地域構造図



2 | 現況と特性

2.1 自然条件

(1) 地形

甲府市の西側約10kmに位置する本市は、釜無川右岸に広がる御勅使川の扇状地とその上流部の南アルプス山系からなります。山系は、フォッサマグナの西縁に位置する大断層「糸魚川―静岡構造線」が南北に走り、長野県と接しています。

平坦地は、釜無川右岸の扇状地に広がり、市街地は主として国道52号沿いに形成されています。山間部である芦安地区の多くは、3,000m級の山々がそびえる南アルプス国立公園に属しています。

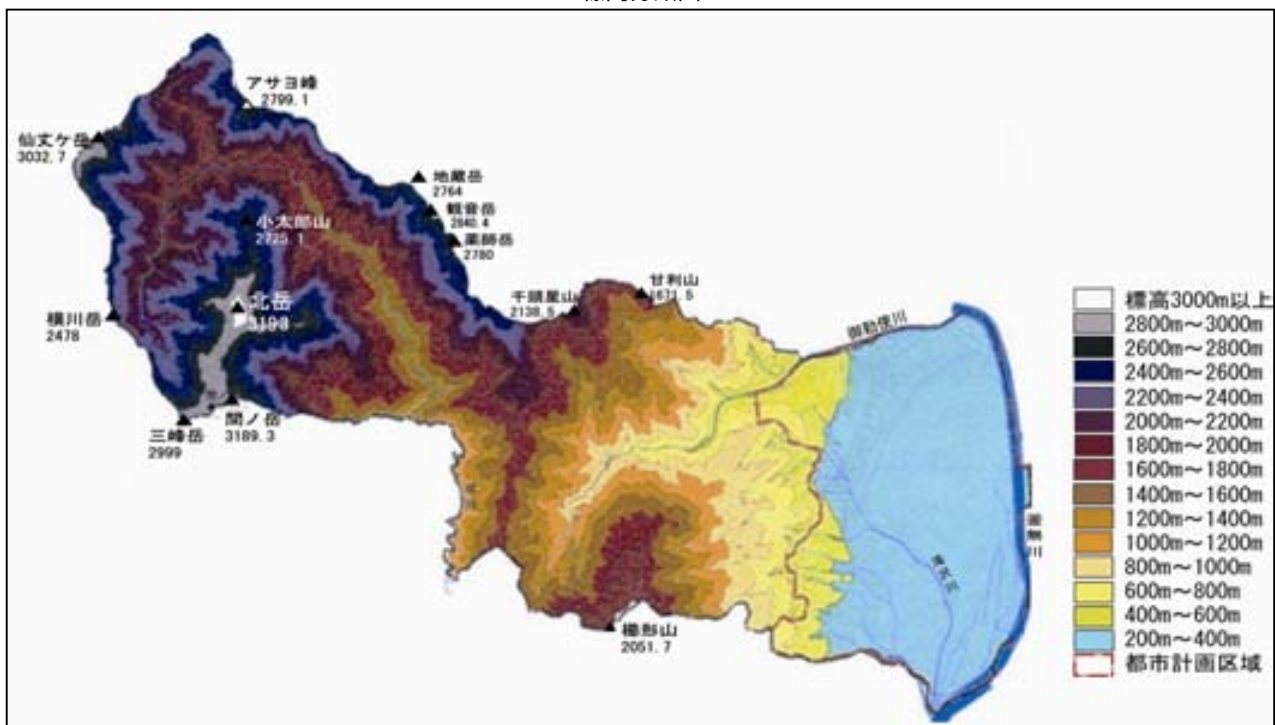
南アルプス山系・北岳



扇状地の景観



標高分類図



(2) 扇状地での地域形成

扇状地の地形

扇状地は、北は蕪崎市上条北割から南は滝沢川を境に甲西地区に及び、扇端では御勅使川の堆積物により、東の釜無川を漸次東方に圧迫し、釜無川は、大きく弓状となり、海拔200～500mにまたがる日本有数の規模・形状となっています。また、市之瀬川による市之瀬扇状地をはじめ、御勅使川の旧河床、たびかさなる釜無川の氾濫による野牛島東端から鏡中条にいたる扇状地側侵食崖など地形的な特徴を持っています。

扇状地での水と農業

扇状地の中央部分は古く「原方」「原七郷」と呼ばれ、砂質土壌で排水も良く、現在、果樹栽培が盛んな地域です。また、扇端では、十日市場や寺部などで伏流水の湧泉地帯となり、土地も平坦で、地下水位も高く、広く水田地帯となっています。

扇状地での集落形成

扇状地における集落は、御勅使川の氾濫に対処するとともに、各戸の飲料水確保のため、旧河道・氾濫線を避け、自然発生的に放射状に点在して形成されました。

市之瀬台地



扇状地の地形特性



2.2 南アルプス市のなりたちとまちづくり

(1) 本市のなりたち

本市の成り立ちは古く、見晴らしの良い山方の段丘面、あるいは台地上から旧石器時代の遺物が確認されており、2万年以上も以前へと遡ります。続く縄文時代の集落は平岡などの台地周辺を中心に、徳永など扇状地扇端地域へかけて広く営まれていたことがわかっています。

市内の遺跡発掘調査事例を概観すると、弥生時代以降急激的に集落が増加する様子があり、なかでも、扇状地での居住は、稲作の浸透とともに弥生時代から古墳時代、さらには平安時代へと連綿し、そして発展していったことがわかりました。

甲府盆地西側最大の古墳「物見塚古墳」など山梨県内有数の古墳群や、八田牧・大井郷などの存在を裏付ける平安時代の大集落の存在、古代から伝わる寺社や仏像の数々などは、平安時代から鎌倉時代へかけてこの地で活躍することとなる甲斐源氏の時代を迎える基盤がすでにできていたことを示しています。

鎌倉時代、地域は八田牧として、甲斐源氏加賀美・小笠原・秋山氏らの有力な軍馬の供給地とし、村落の形成が進み、八田荘と呼ばれ、室町時代に至り、ほぼ近世の村落の形態が形成されました。

甲斐武田氏、織田・豊臣の地域支配の後、徳川氏の直轄または親藩の統治が幕府滅亡まで続きました。この間の市内の村方は、甲府または上飯田（後に市川）の代官所（陣屋）の統治下にありました。

「甲斐源氏」の里

平安時代末、加賀美を本拠地とした加賀美遠光を父とし、長男は秋山を本拠地とし秋山光朝、次男は小笠原を本拠地に小笠原長清と名乗り有力武士として活躍しました。

父遠光は弓術の名手で鳴弦の術で天皇家を救ったという逸話を残しています。次男長清も弓馬術に秀で、源頼朝の信頼を受け流鏑馬の作法を制定しています。室町時代以降も子孫は代々將軍家の師範や大名となり、その伝統は小笠原流礼法、小笠原流流鏑馬として知られています。

当時の面影を伝える遠光館跡・法善寺



指定文化財と遺跡



(2) 御勅使川治水対策と徳島堰

戦国時代、武田信玄は御勅使川の治水事業として、「石積出し」や「将棋頭」などの堤防を築き、御勅使川の本流を北へ付けかえたと伝えられます。続く江戸時代には「かすみ堤」や「牛類」など様々な治水技術が発達しました。また江戸前期の徳島堰開削により、新たな水田や集落が開かれ利水も進みました。しかし、常習乾燥地域であることは変わりなく、特に徳島堰の水が届かなかった御勅使川扇状地上の村々は「原七郷」と呼ばれ、その後も野呂川上水道が整備されるまでの長期間、水の獲得に多くの努力が払われました。

御勅使川周辺の治水施設



徳島堰



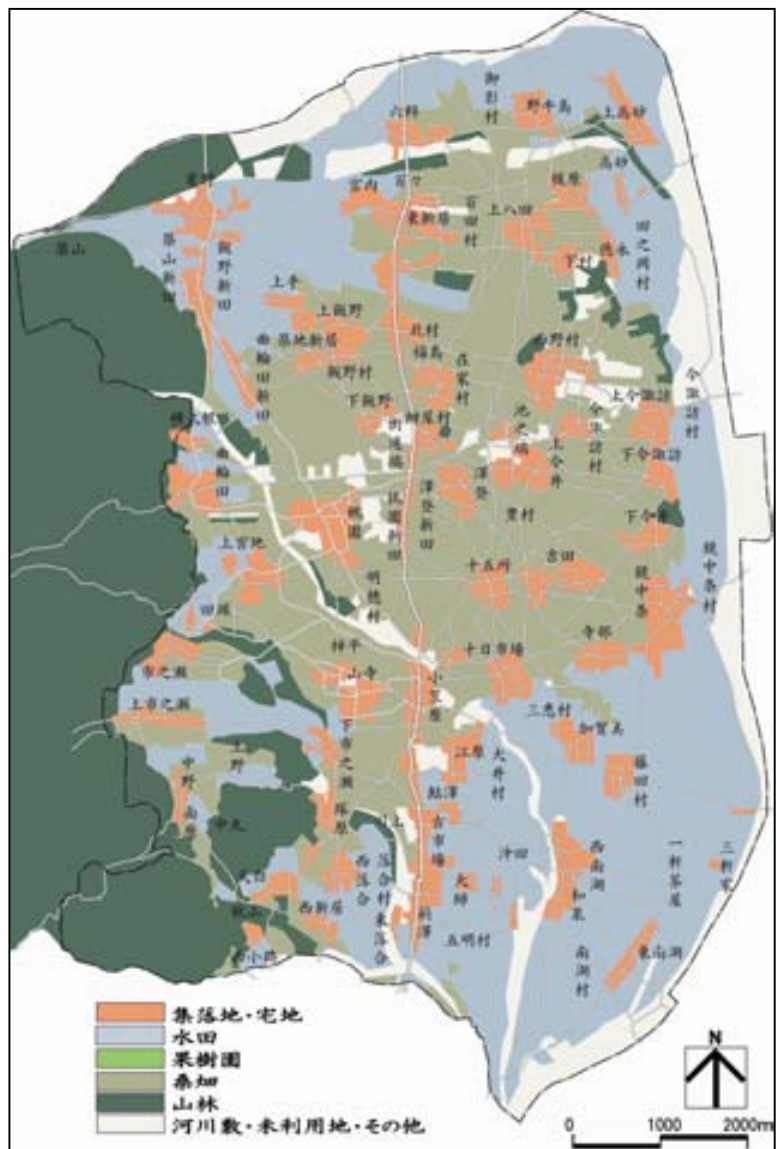
地域変遷図 大正4年

(3) 街道まちづくり

江戸時代の富士川開さく工事により鰍沢、青柳、黒沢の三河岸が設置され、これを基点に駿河へは富士川水運が、鰍沢より北は、青柳にて二筋にわかれ、一方は東南湖を経て府中へ、もう一方は荊沢宿を経て葎崎宿へと交通網が再編されました。

荊沢宿は、甲州道中葎崎宿へ至る脇街道、駿信往還・西郡路の間宿として、周辺農村の商品生産の交易市として発展し、街道まちづくりが進められました。

荊沢宿旧問屋場

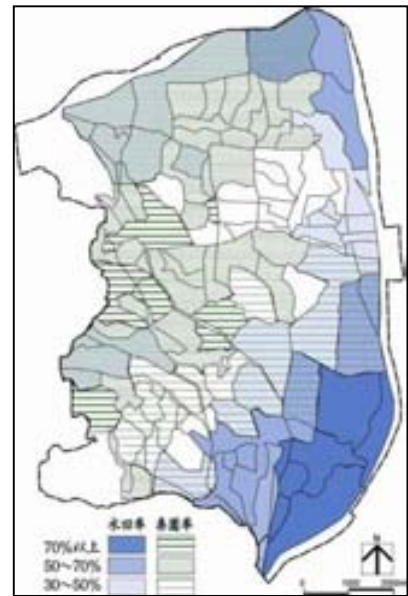


資料：国土地理院二万五千分の一地形図より作成

(4) 葉たばこ生産とまちづくり

明治期の農業は、中期まで江戸時代の継承でしたが、綿と葉たばこの栽培が盛んとなり、県内唯一のたばこの集荷場が倉庫町に設けられ、そのため倉庫町は、歓楽街として発展しました。

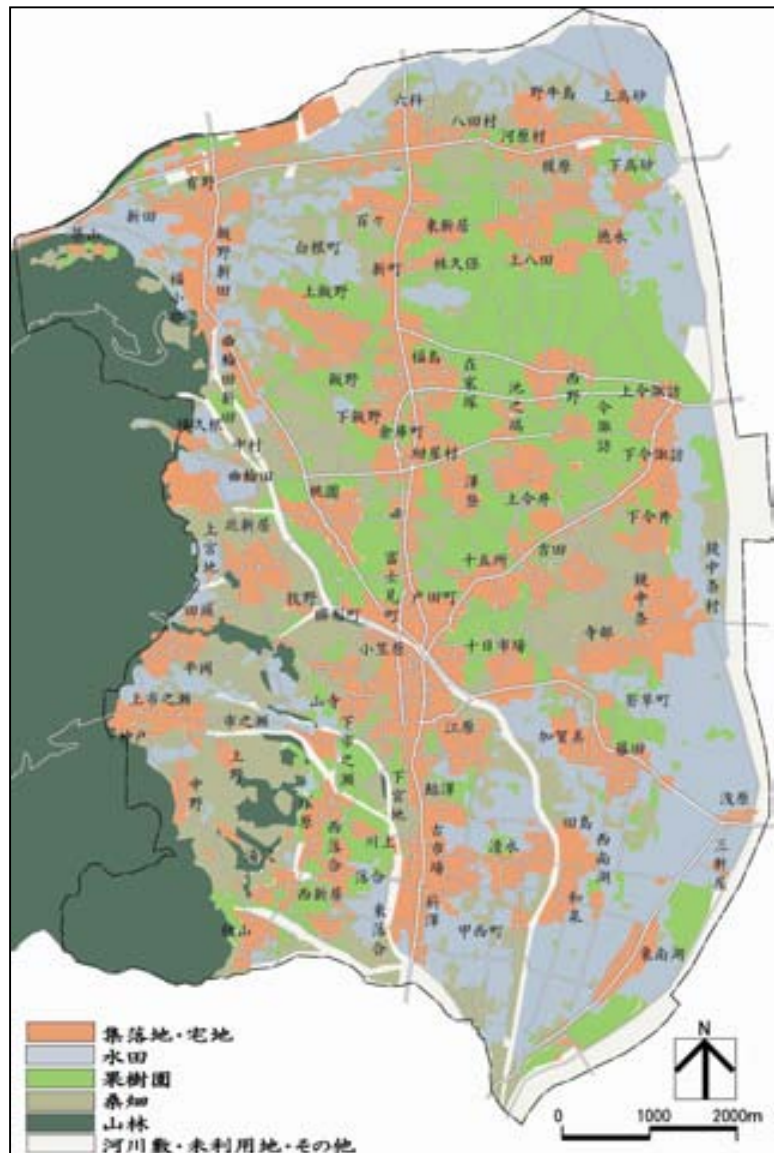
昭和40年での水田率・桑園率



(5) 養蚕地域の形成

大正から昭和初期には、養蚕の最盛期を向かえ、扇中央域では、広く桑園利用が進みました。その後、全国的に桑園が減少する中で、本市においては、春蚕・夏秋蚕・晩秋蚕による3回飼育など、生産性の向上等により、昭和30年代まで、桑園面積の増加がみられました

地域変遷図 昭和47年



(6) 電鉄とまちづくり

明治43年中央線全線開通、富士川舟運に変わる富士身延線の創設(全線開通昭和3年)と続き、昭和5年より峡西電鉄(昭和20年山梨交通電車)が、地方鉄道として開通し、その後三十有余年にわたり、地域の足としてまた、沿線のまちづくりが進みました。

山梨交通電車

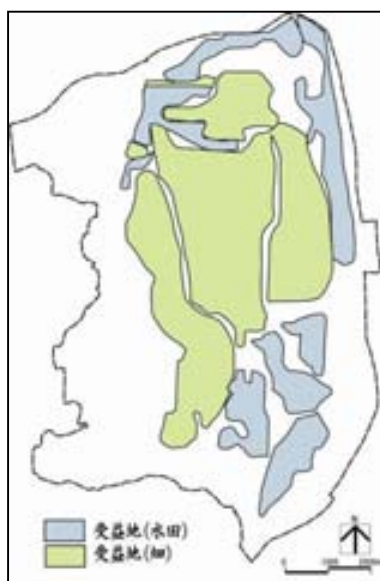


資料：国土地理院二万五千分の一地形図より作成

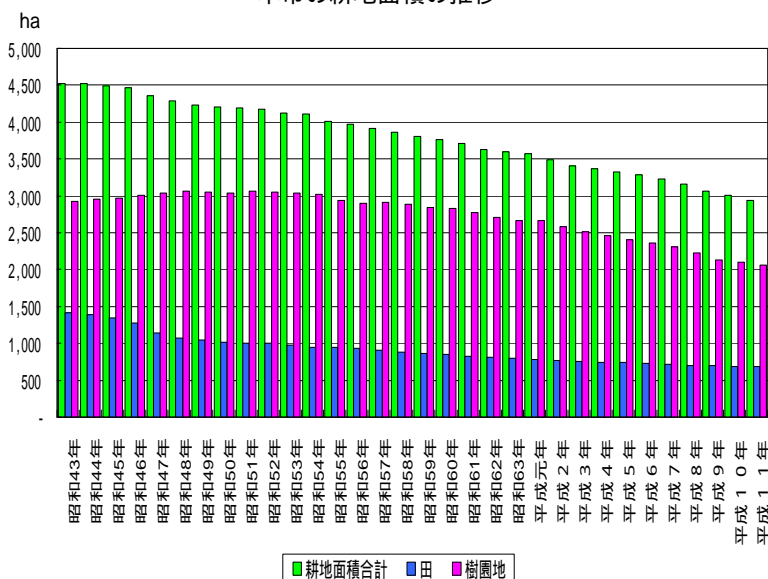
(7) 国営釜無川右岸土地改良事業

早川水力発電所建設に伴う水利権放棄に代わる御勅使川伏流水による上水道事業（昭和35年）の後、徳島堰の改修による国営釜無川右岸土地改良事業が昭和49年に完了し、桑園地帯のほとんどが果樹園地帯に姿を変え、今日の「桃源郷」が形成されました。

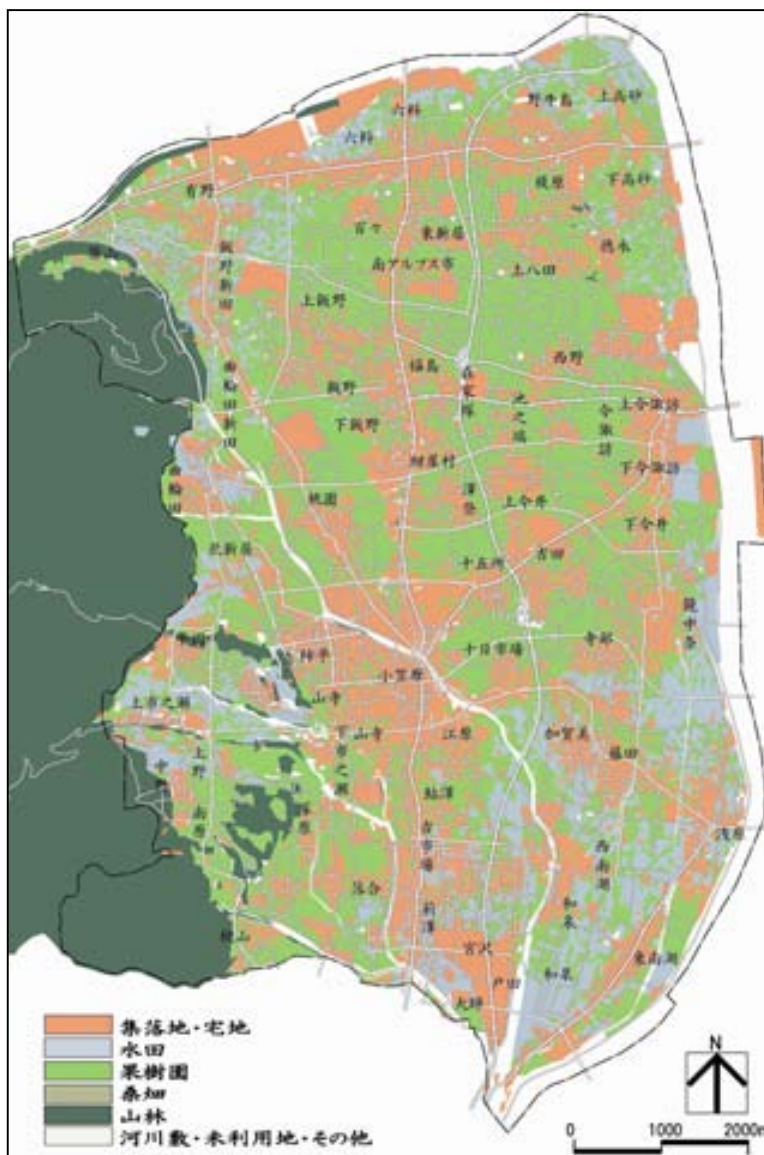
国営釜無川右岸土地改良事業区域



本市の耕地面積の推移



地域変遷図 平成15年



資料：南アルプス市地形図（一万分の一）より作成

(8) 近年の宅地分散化

地域は、昭和30年代からの農業構造改善事業、樹園地農道網整備事業、畑地灌漑整備事業を通じて、桑畑から一体の果樹園地域として形成されました。

一方、扇状地全域に渡る農業基盤施設及び主要道路整備が進むとともに、隣接する甲府都市計画区域からの市街化圧力を受け、現在は、田園地域での人口増加・宅地の分散的な立地が進行しています。

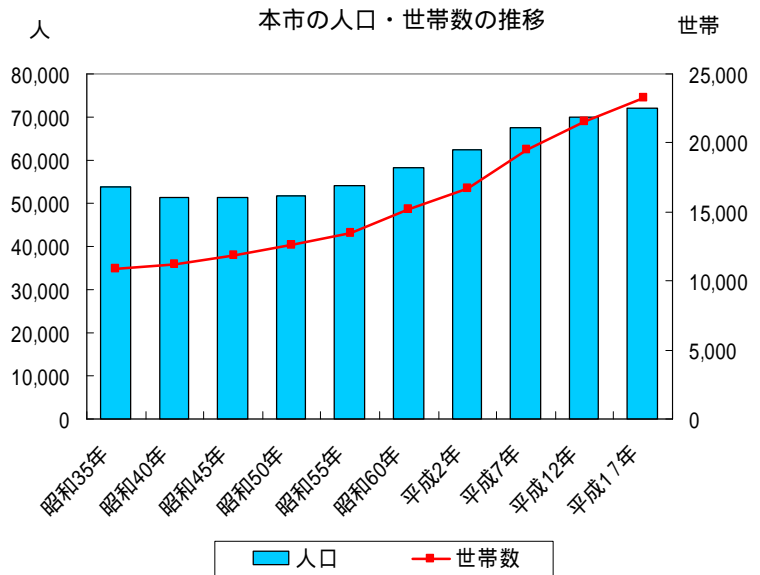
2.3 近年の都市的な動き

(1) 人口と世帯の動き

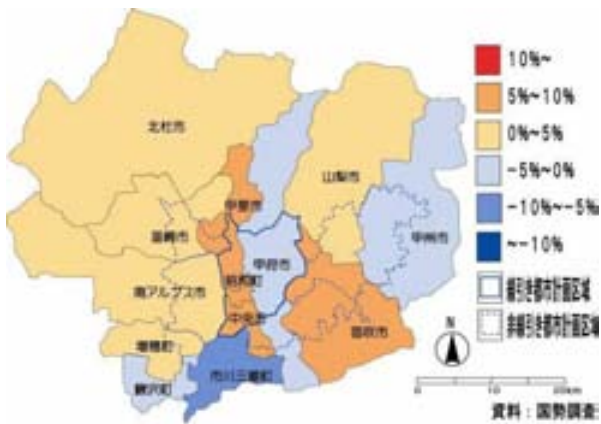
総人口の安定化

甲府市周辺の各都市の人口及び世帯数の動向は、本市を含む甲府市西地域の増加を特徴としています。

本市の世帯数は、増加が続いていますが、人口は、近年安定化の傾向にあります。平成17年国勢調査人口・世帯数は、72,055人、23,316世帯を数えます。



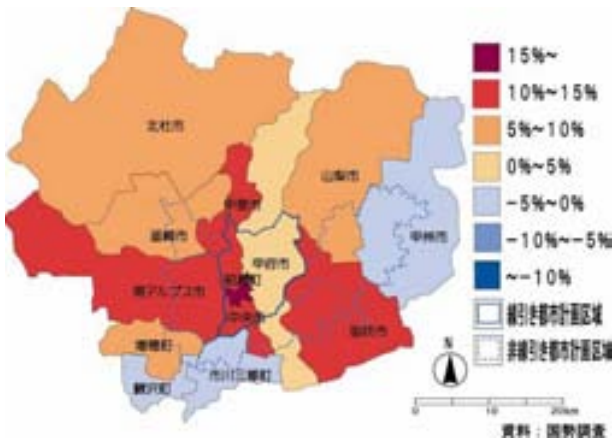
甲府市周辺都市の人口増減率（H7～H12）



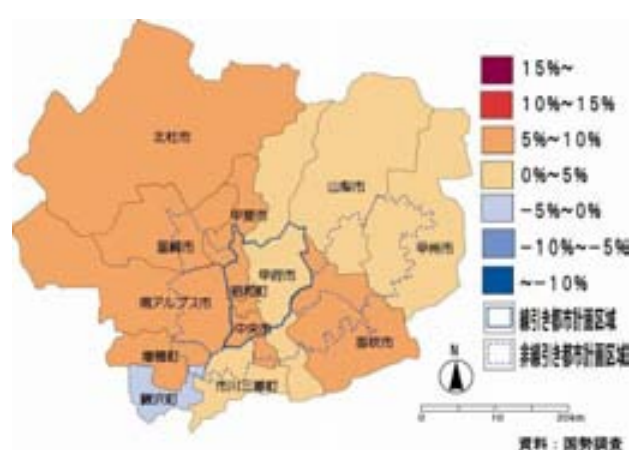
甲府市周辺都市の人口増減率（H12～H17）



甲府市周辺都市の世帯数増減率（H7～H12）

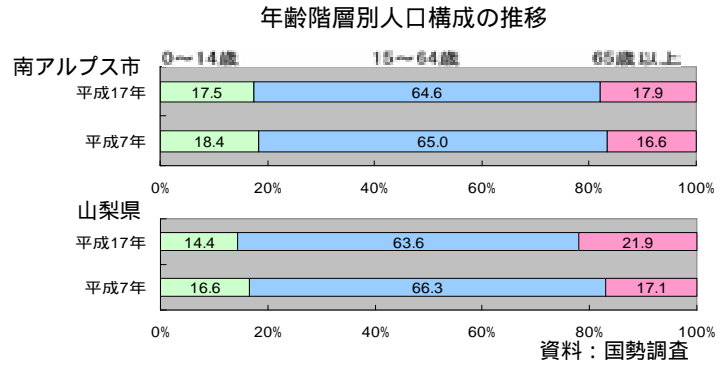


甲府市周辺都市の世帯数増減率（H12～H17）



少子高齢化の進行

年齢人口構成では、若年人口比率の減少、高齢人口比率の増加が進行し、確実に少子高齢化が進行しています。



人口の転入

人口増加は、社会増を主要因としています。自然動態は安定的に推移し、社会動態では、転入超過が続いています。近年、転入者数は減少傾向にあります。

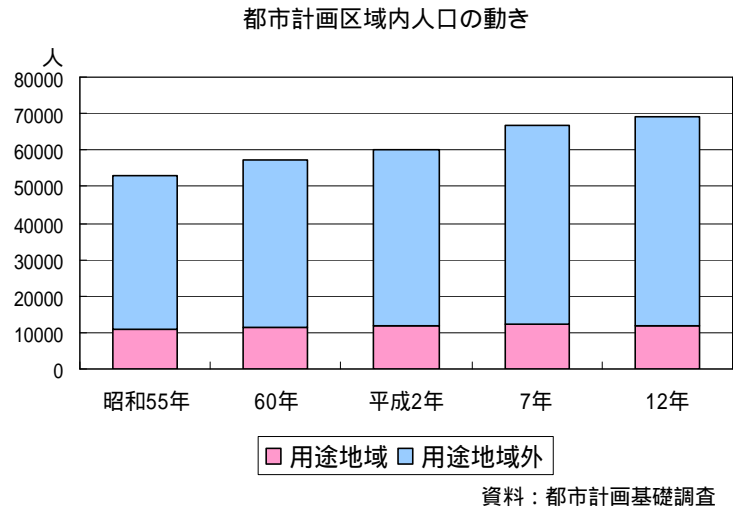
人口動態

		平成7年	12年	17年
自然動態	出生数(人)	665	677	709
	死亡数(人)	558	535	622
	自然増減(人)	107	142	87
社会動態	転入数(人)	3,352	3,526	2,728
	転出数(人)	2,665	2,826	2,439
	社会増減(人)	687	700	289

資料：山梨県常住人口調査

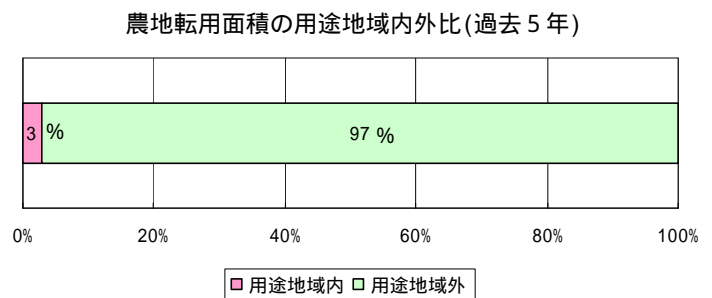
用途地域外での人口増加

人口の増加は、都市計画区域内での人口増加によります。特に用途地域外での人口増加が顕著です。居住密度では、用途地域内での地区面積に対する人口密度が約24人/ha、用途地域外では、約8人/haと低密度の状況にあります。

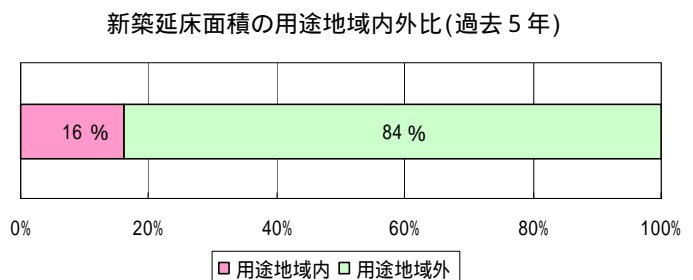


農地転用による人口増加

人口転入は、農地転用による宅地化によって支えられています。過去5年間の農地の転用面積は約310ha(このうち住宅への転用は137ha)で、これは、現指定の用途地域面積(492.6ha)の約63%に匹敵します。



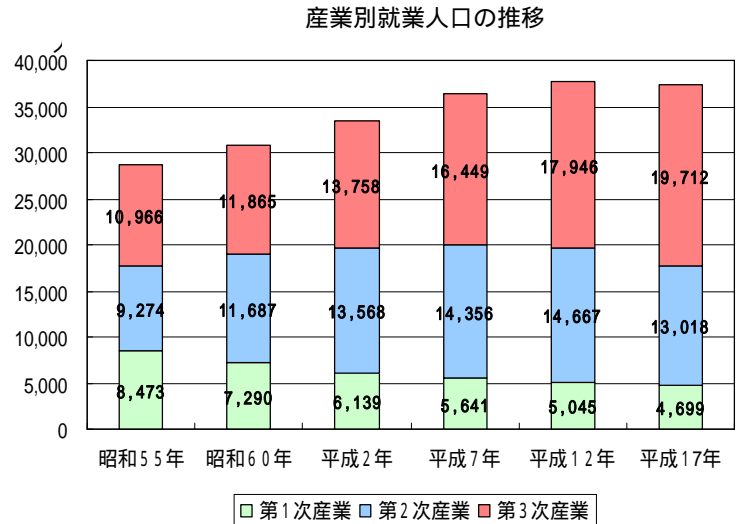
用途地域内外比率を比較すると、転用面積の約97%、新築建物延床面積の約84%が用途地域外での行為となっています。



(2) 産業の動向

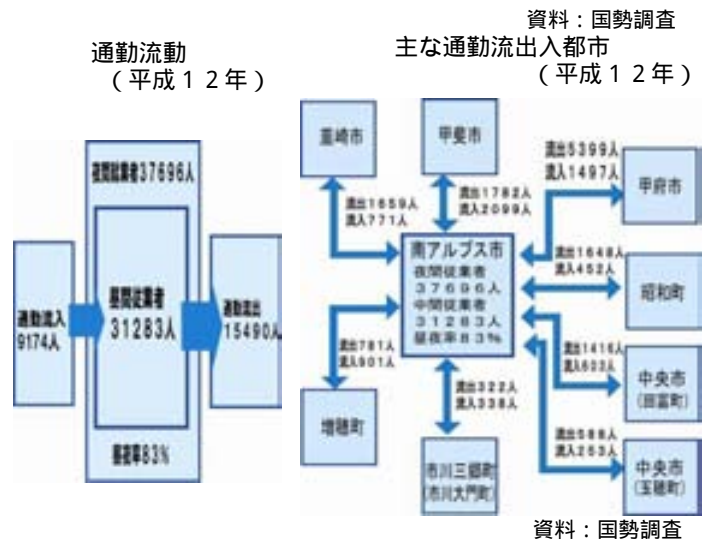
就業人口構造

平成17年時点での本市の就業人口は、38,162人で、第1次産業就業人口の減少、第3次産業就業人口の増加が続いています。



甲府市への通勤流出

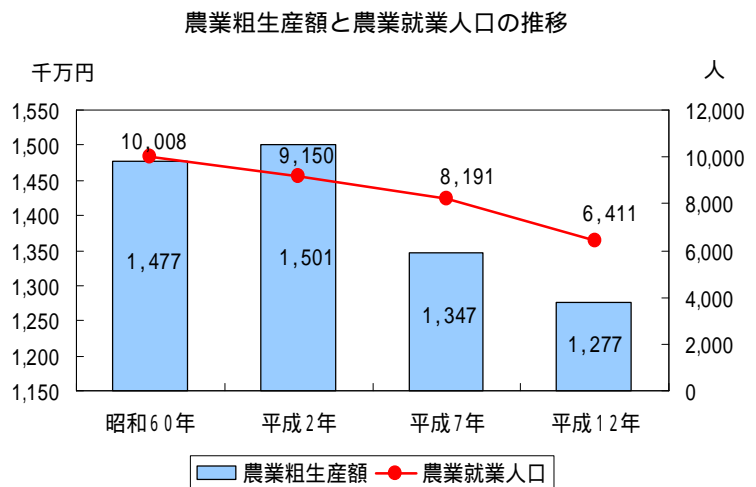
平成12年時点での本市への通勤流入人口は、9,174人、通勤流出人口は15,490人と流出超過となっています。甲府市への流出割合(5,399人、通勤流出の35%)が高く、次いで甲斐市、韮崎市、昭和町の順となっています。



農業

本市の基幹産業といえる農業は、粗生産額、就業人口ともに減少が続いています。また、近年の農業従業者の高齢化や農業離れの進行とともに、耕作放棄地の増加が続いています。

宅地の分散化立地の背景にこれらの農地の荒廃化・放棄化の進行があり、都市施策と連携した土地利用型農業の振興と農地の具体的な保全施策が求められます。



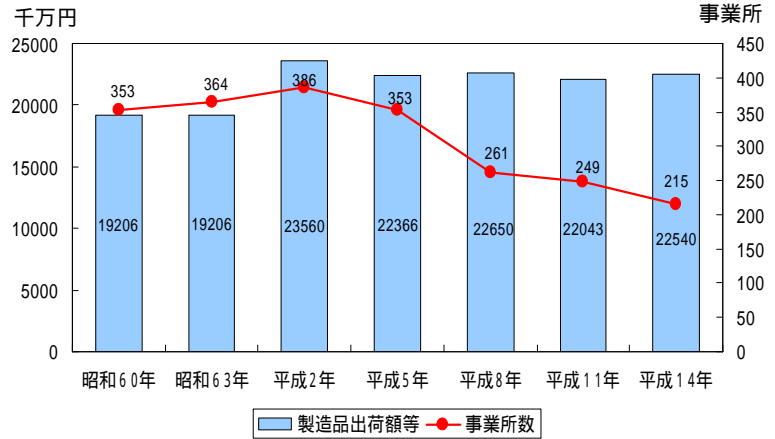
資料：農林業センサス、山梨県農林水産統計年報

工業

1 基幹及び 5 地区拠点工業団地を有し、本市の製造品出荷額等は、安定的に推移しています。

一方、県内への企業進出は、低迷しており、企業誘致や競争力のある産業の育成が課題となっています。

製造品出荷額・事業所数の推移



資料：工業統計(従業者 4 人以上の事業所)

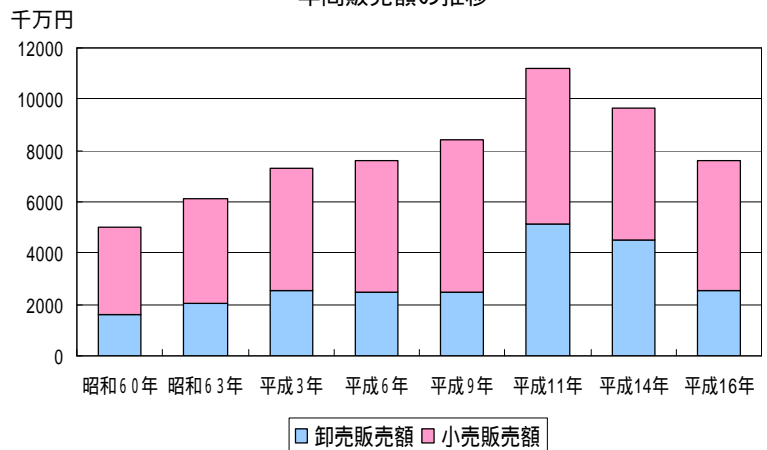
商業

本市の年間販売額は、近年卸売販売額、小売販売額ともに減少しています。

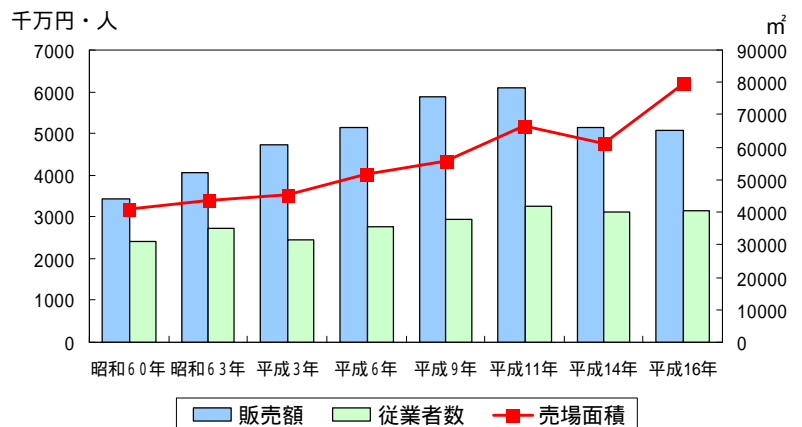
本市の属する甲府商圏においては、小売販売額が減少する中で、郊外立地による小売商業床面積の増加が続いています。

本市においても、同様の傾向を示し、小売販売額、小売従業者数の減少・安定傾向にあっても沿道立地を中心とする大規模小売店舗の立地により、売場面積が増加しています。このため、中心市街地の商店街では売上げ、店舗数が急激に減少しています。

年間販売額の推移



小売販売額・従業者数・売場面積の推移



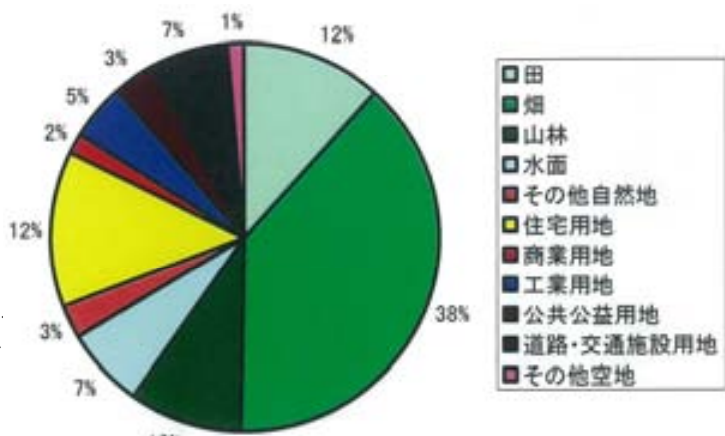
資料：商業統計

(3) 土地利用の動向

都市計画区域内用途別土地利用面積割合

土地利用の用途別割合
都市計画区域(面積約7,420ha)のうち、農林自然的土地利用地は、約7割を占め、宅地、道路等の都市的な用地は3割程度です。

住宅地が12%、商業地が2%、工業地が5%、公共公益用地が3%と宅地が全体の約2割を占めます。また、道路等用地は7%程度です。



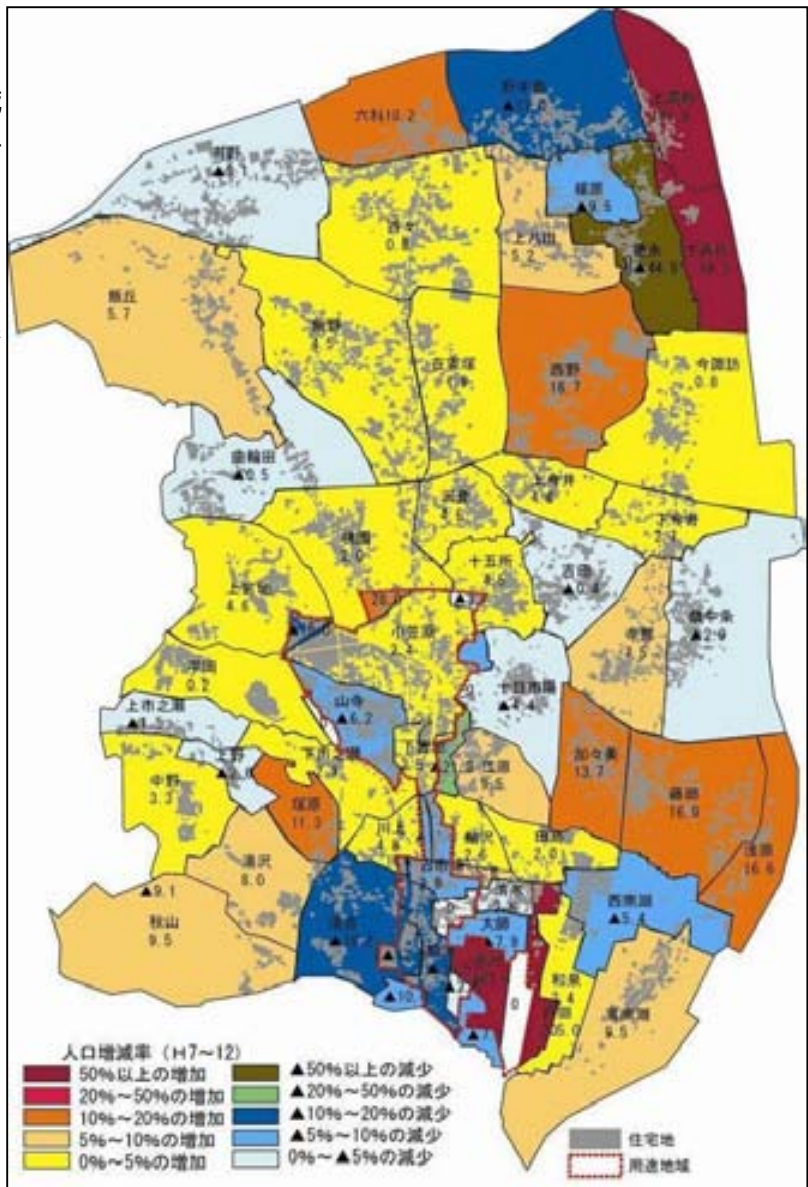
資料：都市計画基礎調査

地区別人口増減率と住宅地の分布

宅地の低密度分散化

人口の増加は、都市計画区域全体に広がり、特に、釜無川沿いの信玄橋、開国橋、浅原橋周辺での増加が顕著です。

これらの住宅地は、低密度に分散し、いわゆる農振白地内での立地が顕著です。



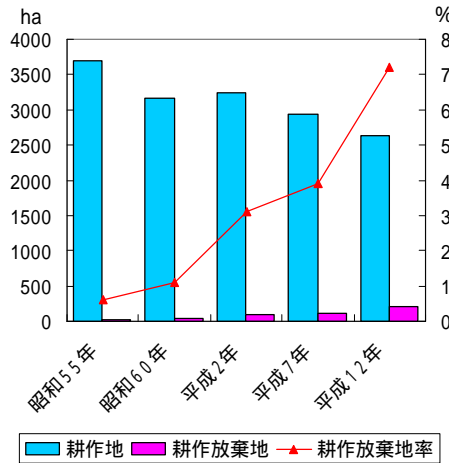
資料：都市計画基礎調査

耕作放棄地の増加と分布

平成12年時点での耕作放棄地は、約205haで増加しています。

農業施策としての耕作放棄地発生未然防止、発生後の有効な利活用(グリーンツーリズム対応や環境・景観施策等)が望まれますが、一方で都市的土地利用への予備地的な性格をも有しており、都市施策としても計画対応が必要です。

耕作放棄地面積の推移



資料：農林業センサス
耕作放棄地に、未作付け地等は含まず。
このためいわゆる遊休農地とは異なる。

荒地・耕作放棄地の分布



資料：都市計画基礎調査

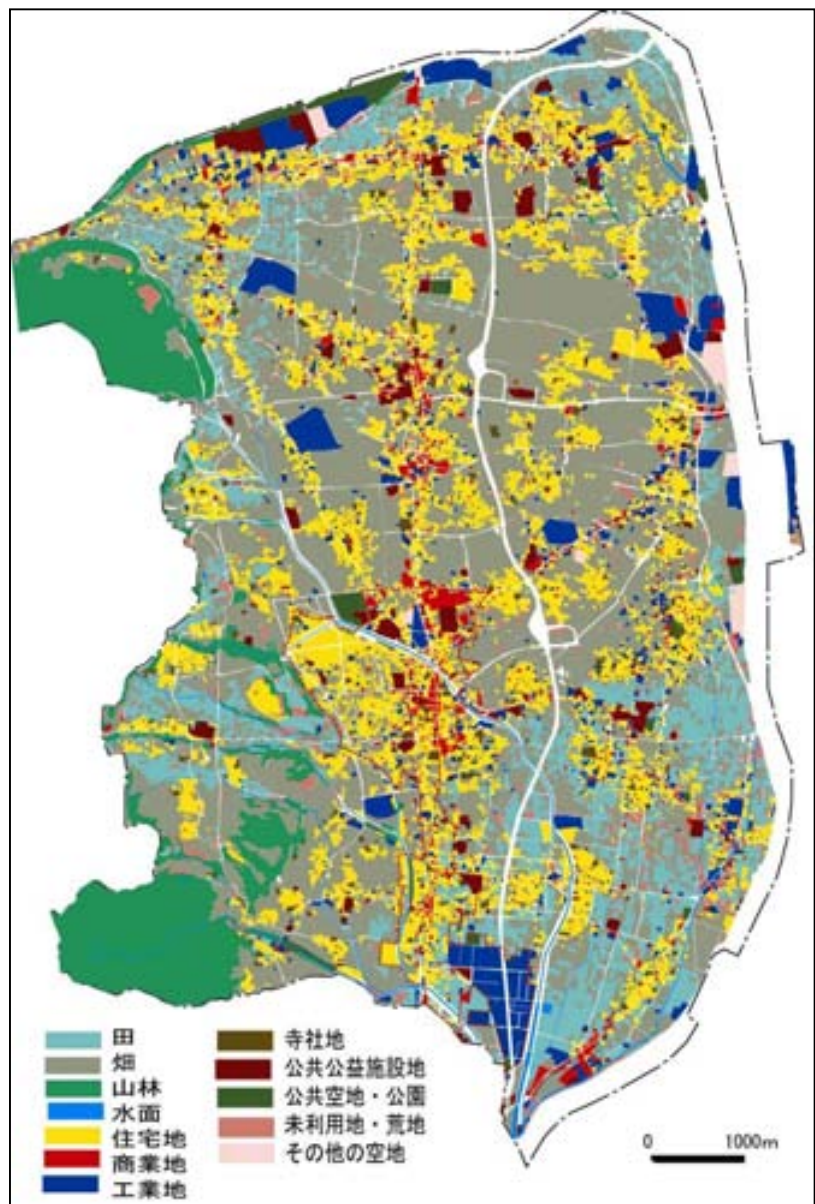
土地利用の分散と用途混在

本市の土地利用は、これまでの地域の形成経緯から、宅地の分散構造を基本としています。住宅地の分散立地に対応して商業、生活サービス施設、公共公益施設などが分散的に立地し、農地と宅地の混在が進んでいます。

比較的規模の大きい工業地については、河川沿い等に計画配置がなされていますが、中小工場については、住宅地内に混在しています。また、これらの宅地は、国道52号沿いの市街地及び集落地と近年では、釜無川沿いの新規地区などに大きく2極化の傾向にあります。

土地利用用途を適正に導く施策として用途地域制度がありますが、現在の地区指定は限定的です。なお、市開発指導要綱で新規開発への技術的指導を行っていますが、立地規制はありません。

土地利用現況図



資料：都市計画基礎調査

2.4 都市計画と都市施設の現況

(1) 都市計画

市内全域(26,406ha)の約28%にあたる7,420haの土地が都市計画区域に指定されています。

用途地域

種類	面積(ha)	建ぺい率(%)	容積率(%)	高さ(m)
第1種低層住居専用地域	33.0	50	100	10
第2種低層住居専用地域	11.0	50	100	10
第1種中高層住居専用地域	158.0	50・60	200	
第1種住居地域	163.0	60	200	
第2種住居地域	10.0	60	200	
近隣商業地域	13.8	80	300	
商業地域	11.0	80	400	
準工業地域	12.0	60	200	
工業地域	8.8	60	200	
工業専用地域	72.0	60	200	
合計	492.6			

地区計画

地区計画は、柿平地区(27.6ha)の1箇所が指定されています。

(2) 都市施設等

交通

市内には、中部横断自動車道、新山梨環状道路などの広域幹線道路、国道52号、県道南アルプス甲斐線などの幹線道路があり、主要幹線及び幹線道路の整備は55.3%(道路整備プログラム)となっています。

都市計画道路は、24路線、57.53km決定され、整備率は76.6%(平成17年度末現在)となっています。

鉄道及び駅はなく、市内のバス路線としては、民間バス路線と広河原～北沢峠間の市営バス路線がありますが、民間バスについては、需要の減少から運行本数は減少傾向にあります。

なお、市内循環バスの試行を行っているところです。

公園緑地

都市計画公園としては、総合公園2箇所、地区公園4箇所、街区公園6箇所の計12箇所、面積54.06haが計画決定され、整備率は約95%(平成17年度末現在)となっています。

河川

市内の主要河川としては、釜無川、御勅使川、坪川、滝沢川、横川、五明川、八糸川、油川等があり、一級水系富士川河川整備基本方針（国）及び富士川水系釜無川圏域河川整備計画（県）を基本として整備が進められています。

上下水道

市内の上水道施設は、上水道を主に、簡易水道、飲料水供給施設による上水供給地域もあります。

下水道は、釜無川流域関連南アルプス市公共下水道計画に基づいて、全体計画処理区域面積2,958haの整備が行われており、平成17年度末で整備面積818.12ha、普及率35.2%にとどまっています。

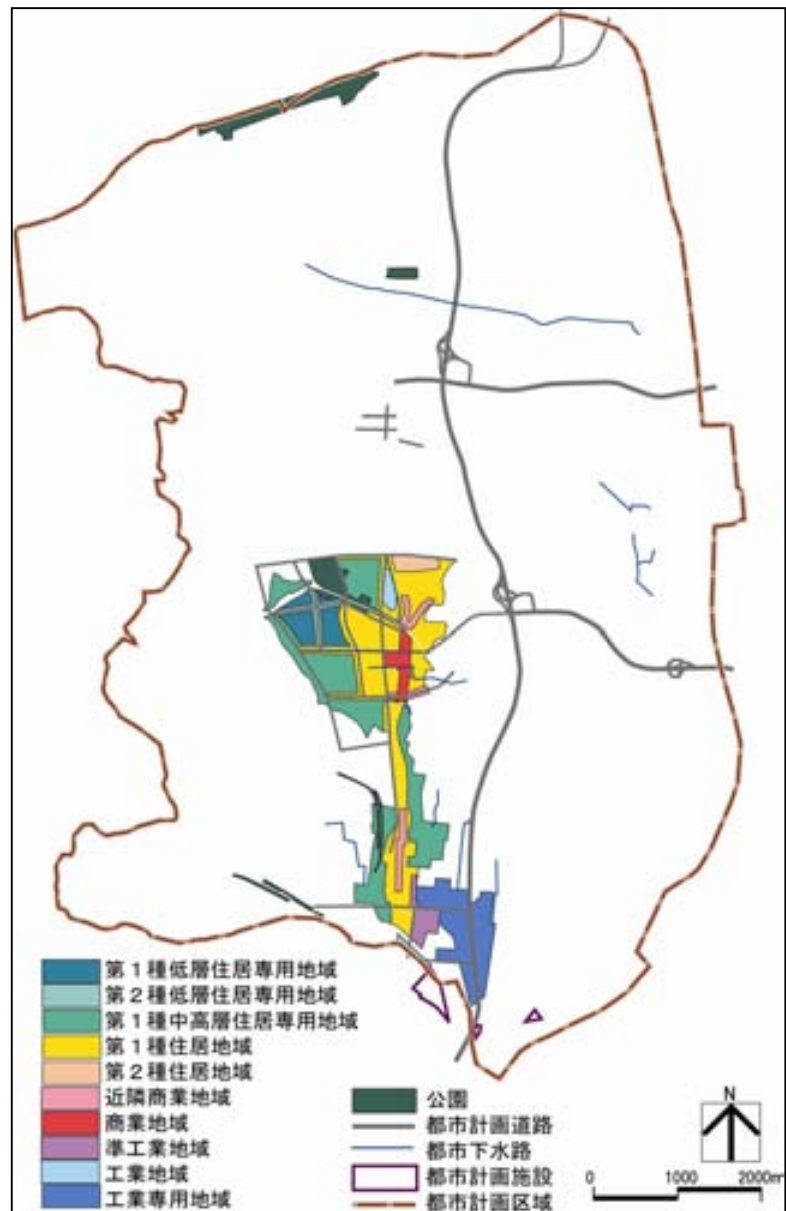
その他

その他の都市施設は、官公庁施設、教育施設、文化施設、医療福祉施設、保育所、観光・温泉施設、スポーツ・レクリエーション施設などがあり、適正な管理を含めた計画的再編が課題となっています。

本区域は、山岳地帯に近接し、降雨が短時間で区域内に流下することに加え、古くから釜無川の氾濫もあり、これら災害へ対応する河川整備が順次進められてきました。近年、溢水による重大な被害はありませんが、都市計画区域南部は、雨水排水が集中する低地となっており、平成12年に甲西地区で浸水被害（浸水被害面積124ha）が発生しています。

なお、東海地震の地震防災対策強化地域に指定されています。

都市計画の現況



2.5 特性

南アルプス市は、その成り立ちや現況から、次のような特性を持っています。

樹園・田園のまち

扇状地の中央部での果樹生産、里山・河川沿いでの稲作をはじめ、野菜・花卉生産などにより、樹園・田園風景を形づくっています。農業は、本市のなりたちと深くかかわり、新鮮な食料の供給のみにとどまらず、自然環境の保全や果樹観光交流など、都市形成の基盤として重要な役割を担っています。

豊かな農林・自然環境にふれあえるゆとりある居住のまち

扇状地における広がりのある農地とともに、本市は、南アルプス山系に連なる西の山岳丘陵、櫛形山、市之瀬台地、東に位置する釜無川、扇状地を流れる御勅使川、滝沢川、坪川など水と緑の豊かな自然環境を有しています。

一方、地域の人口は、県都甲府市からの人口移動などにより増加しています。こうした背景には、豊かな自然・田園環境と生活基盤の充実が上げられます。

本市は、豊かな農林・自然環境にふれあえるゆとりある居住のまちとして、その魅力の一層の向上が市民に広く支持されているまちです。

多様な産業のまち

甲州鬼面瓦、甲州武者のぼり、鯉のぼりなど、特徴ある地域の伝統工芸は、これまでの多様な都市交流を背景に地域資源を活用して培われてきました。

また、現在では、市内各地域に工業団地の整備が進み、地域に根付いた産業地としてその機能を果たしています。このように、本市は、地域産業から先進工業までの多様な産業を有するまちです。

雄大な扇状地景観のまち

御勅使川扇状地は、その広がりのある地形から、一体の地域を形成するとともに、地域内外の交流を可能とし、これまでに多様なまちや里の環境や資源を形づくってきました。これら資源と広がりのある扇状地及び背後山岳により作られる景観は、本市の魅力の源泉といえるものです。

豊かな歴史・文化のまち

扇状地における水の確保や水害対策の歴史、街道まちづくりやその背後の農業・集落環境の形成などによる様々な歴史が重なり合って、個性ある独自の歴史・伝統・地域文化をつくっています。